家庭教育ニュースレター
家族の絆
2010年春 Vol.38
発行／西宮市教育委員会
問合せ先／社会教育グループ TEL 0798-35-3868

＜家庭教育フォーラム　講演会＞

テーマ

こんな時　子どもも地域もステキに輝く
～ はぐくもう「自尊感情」 ～

講師：大阪教育大学　教授　園田　雅春　氏

教育委員会は、家庭教育振興市民会議と共催で、平成２２年1月２４日（日）に西宮市役所東館８階大ホールで、家庭教育フォーラムを開催いたしました。当日は、１０月に実施した「家族の絆　標語コンテスト」の入賞作品の表彰式と、大阪教育大学教授の園田　雅春氏を講師にお招きして、講演会を行いました。

＜内　　容＞

「子どもはホメて育てましょう。」

こんな言葉をよく耳にします。でも、何かそこにはムリがあるように思えてなりません。もっと自然体で子どもとかかわりたいものです。「ホメなければならない。」という意識から発せられた言葉や表情というものは、どこかきっとぎこちないものがあるように思えてなりません。当の子どもも「素直に喜んでいいのかしら……」と、こちらの不自然さを敏感に感じとるかもしれません。

もっと自然体で、ということを少し解説するなら、こちらが目の前の子どもを「ホメたくなる」ような子どもの事実に直面したとき、だれしも口や表情や所作が晴れやかに躍動しはじめるではありませんか。このナチュラルな姿こそ、もっとも美しいものだと思います。

「ホメなければ」と「ホメたくなる」は、似て非なるもの。状況に雲泥の差があります。

じつは、子どもを「ホメたくなる」ときというのは、こちらが子どもに「共感」しているのです。「共振現象」といってもよいでしょう。子どもは「共感」してくれるおとなを前にして最高に心地よくなります。意欲も湧きます。子どもに限ったことではありませんが。

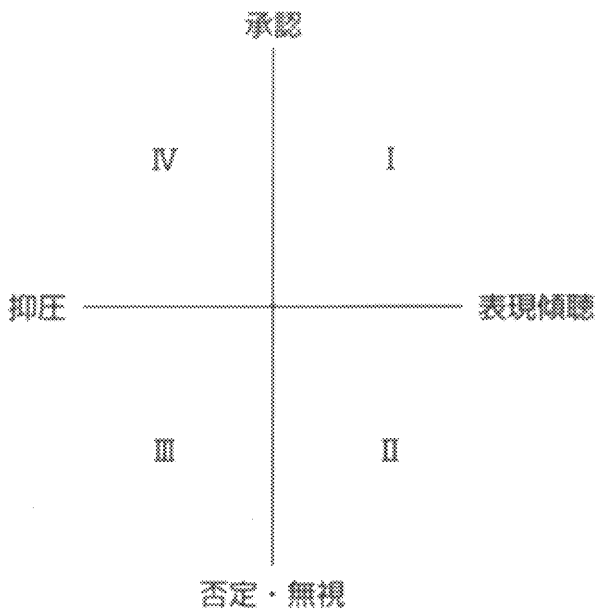
したがって「ホメなければ」という努力をするよりも、こちらの「共感のアンテナみがき」をこそ、つねに怠らないことです。

子どもの小さな言動や表情の変化を、この「共感のアンテナ」で、ピピッとキャッチできるようになれば、わが子を見直してしまう場面や、わが子にホレ直してしまう場面にいくつも出あうことができるはずです。そのためにも、まずはこちらの「アンテナみがき」が最重要の課題なのです。でも、つぎの一点だけは肝にしっかり銘じておきたいものです。

「子どもの悪い点ばかりをあげつらっていると、そうなってほしくないような人間になってしまう。」（デニス・ウエイトリー）

子どもの持つ底力を引き出すために

「いま子どもたちが内面で求めているもの」それは2つあると私は考えています。その一つは「自分のことを認めてもらいたがっている。」（承認願望）ということ。もう一つは「自分のことを表現したがっている＝話を聴いてもらいたがっている。」（表現傾聴願望）ということです。下の図は、二つの願望を座標化したものです。



地域・家庭・学校・教室が第Ⅰゾーンのような環境にあるなら、すべての子どもは自尊感情を豊かにはぐくむことができ、日々を輝いて生きていける、と断言してもよいと思います。

自尊感情とは、若者言葉に置き換えるなら「自分ってイケてる感覚」といえましょう。「単なる自信ではなく、自分の存在そのものに対する揺るぎない自信」です。この自尊感情は学習意欲の根源であり、また「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」感覚＝人権感覚の根源である、と私は確信しています。

「どうせ自分なんて……。」

「しょせん私なんか……。」

このような自己差別感情をぬぐいさり、顔を上げ、前を見つめて生きていく子どもたち。そんな子どもたちの底力を引き出すのが、わたしたちおとなの最大の役目です。

さいごに、「共感」について考えさせられる一つの詩を紹介してこの稿を閉じます。

未完の姿で完結している

大槻武治

ああでなければならない
こうでなければならないと
いろいろに思いをめぐらしながら子どもを見るとき
子どもは実に不完全なものであり
鍛えて一人前にしなければならないもののようである。
いろいろなとらわれを棄て
柔らかな心で子どもをよく見るとき
そのしぐさのひとつひとつが実におもしろく
はじける生命のあかしとして目に映ってくる。
「生きたい、生きたい」と言い
「伸びたい、伸びたい」と全身で言いながら
子どもは今そこに未完の姿で完結している。

（講師プロフィール）

1948年、京都市生まれ。
大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程修了。
大阪府高槻市公立小学校に31年間勤める。
現在、大阪教育大学教授
大阪府放課後子どもプラン推進委員会委員長、
高槻市子ども読書のまち推進委員会委員長、
大阪市就学前児童健全育成プログラム策定委員会議委員など歴任。
新聞・雑誌原稿の執筆や、教育講演のため全国各地を飛び回り、多忙な日々を送っているが、あくまでも「子ども主義」「現場主義」にこだわることが信条。
『道徳教育』（明治図書）、『毎日小学生新聞』（毎日新聞社）などに連載中。
（著書）『学校はドラマがいっぱい――育てよう自尊感情』（法蔵館）、『学校という劇場』（雲母書房）、『関田雅春流 学級リフレッシュ術』（明治図書）など多数

※講演会のダイジェスト版を西宮市HP(http://www.nishi.or.jp)に掲載しています。（「くらす西宮」>「教育」>「家庭教育フォーラムを開催しました」）

平成２１年度
家族の絆　標語コンテスト入賞作品紹介
テーマ「思いやりのある西宮っ子を育てよう」

この標語コンテストは、教育委員会と家庭教育振興市民会議の共催で、家庭教育の大切さと「社会全体で子どもを育てていく」という意識を広めるために、１０月１日～１０月３１日まで実施し、７００名の方から１０５８点の応募がありました。審査の結果、次の１５点が入賞となり、平成２２年１月２４（日）の家庭教育フォーラムで表彰式を行いました。

☆ 見守ろう　よその子我が子　区別なく
（藤谷　弘さん）

☆ 「どうしたの」　かける言葉が　心の手
（宮狭　義幸さん）

☆ 家族の和　笑い、ふれあい、認め合い
（長谷中　隆広さん）

☆ ありがとう　言われて育つ　思いやり
（崎山　史絵さん）

☆ 育てよう　やさしい心の　小さな芽
（増井　美和さん）

☆ あたたかい　こころのふるさと　にしのみや
（大畑　広子さん）

☆ 力を合わせれば　なんでもできる！友達の絆
（山田　華菜子さん　中学生）

☆ 挨拶で　深まる絆　地域の輪
（井上　翔太さん　高校生）

☆ 守ろうよ　子どもの笑顔　明るい未来
（大下　翔平さん　高校生）

☆ だれでもね　ゆうきやさしさ　あるんだよ
（堀久　廣太郎さん　小学生）

☆ 朝ご飯　食べて　じょうぶな心とからだ
（小野　渚彩さん　小学生）

☆ だめなこと　注意しあえる　友達に
（井上　陸さん　小学生）

☆ 子どもの居場所　安心なのは　親のもと
（藤本　彩末さん　大学生）

☆ 家族とね　話す時間を　大切に
（鈴鹿　栞那さん　中学生）

☆ 春の風　風はぼくらをつつむけど
君もやさしくみんなをつつもう
（西本　洋平さん　中学生）

子どもたちを携帯電話によるインターネット被害から守ろう！（報告）

西宮市教育委員会

ICT（情報通信技術）社会の到来によるインターネットの普及は、多くの人々の生活の一部となり、人々が共有していた価値観や考え方に大きな影響を与えています。子どもたちにもインターネットでの情報収集等により、趣味や活動の範囲が拡大するなどの好影響がある、その一方で、インターネット利用に関係する有害情報をめぐる事件やトラブルは、大きな社会問題となっています。

平成21年度、教育委員会では、「子どもたちをインターネットの被害から守ろう」をテーマに6･7月と10･11月にキャンペーン期間を設け、西宮市PTA協議会などの協力を得て学習会など啓発に取り組みました。

キャンペーン期間の主な取り組み

＜6月、7月＞

(1) 家庭教育ニュースレター「家族の絆」特集号
「子どもたちをインターネットの被害から守ろう」
市内公私立の幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校に配布（74,500部）

(2) 公民館主催事業の人権問題学習会で講座開催
・春風公民館（6/11）　・瓦木公民館（6/26）

(3) 第23回　西宮市青少年問題フォーラム（7/10）
講演「ケータイを見つめ続ける子ども達」
～インターネットの危険回避と安心利用～

(4) 補導活動連絡会（市内7会場で、中学校を中心に開催）で「ケータイ」をテーマに協議（6月）

(5) 「学校だより」による啓発

(6) 文部科学省製作DVD「ちょっと待って、ケータイ」の貸し出し

＜10月、11月＞

(1) インターネット問題に関する研修支援事業

(2) 市内を4ブロックにわけ、公民館を会場に1ブロックで2回講座を開催した。1回目は、NTTドコモによる「ケータイ安全教室」。2回目は学校人権教育グループ指導主事による「インターネットに関わる子どものこころ」をテーマに行った。
・鳴尾公民館（10/2　10/9）
・塩瀬公民館（11/5）　山口公民館（11/17）
・夙川公民館（11/6　11/20）
・中央公民館（11/26　12/4）

(3) 家庭教育講演会（11/11）
講演「ネット社会の子どもの現状」

(4) 補導活動連絡会（市内7会場で、小学校を中心に開催）で「ケータイ」をテーマに協議（6月）

(5) さくらFM「アットホームにしのみや」で放送（11月）

10月･11月に取り組んだ、学習会「講座1:ケータイ安全教室」「講座2:インターネット被害の実情と子どもたちの心の問題」では、NTTドコモや文部科学省が製作した啓発ビデオを活用し、子どもたちが、携帯電話によるネット被害に遭う経緯や被害に遭わないための防衛手段として、フィルタリングなどの活用や必要最小限の使用制限を設けるなど安全装置を設けることの有効性が紹介されました。そして、一番大切なことは、家庭内で子どもとのコミュニケーションを密にし、相互の信頼関係を築くことの大切さが伝えられました。

皆さんから寄せられたアンケートをご紹介いたします。

・ネットや携帯の怖さを改めて考えさせられました。どの家庭でもありえる状況だと思い、いつも子どもの話をしっかり聞く大切さを感じました。
・子どもが困ったときにすぐに相談してもらえるような状況をつくり対応してあげたいと思います。
・どんな小さいことでも話を聞き、どんなことを考えているかを理解していきたいです。
・一方的でなく子どもの話を聞こうと思った。
・子どもの話に耳を傾けて子どもとの信頼関係をしっかり築いていこうと思いました。
・一緒に考えて、一緒にルールを決めていくなど、親子のコミュニケーションを深めたいと思う。
・ちゃんとルールが守れる年齢になるまで持たせたくない。持たせるときは、ルールをきちんと決めて教えたい。
・ケータイのことや社会のルール、マナーについて話し合いたいと思います。

※アンケートは、参加者201人のうち184人からいただきました

困ったときには、親や先生に相談を！